

ウガンダ月報(2019年8月)

主な出来事

【内政】

- 政府による野党政治家の通信傍受及びファーウェイ社の関与
- エボラ出血熱患者輸入事例の発生

【外政】

- ウガンダ当局によるルワンダ系教会の強制捜査
- 地域の協力及び安全保障に関するウガンダ・ルワンダ間の覚書締結
- キール南スーダン大統領のウガンダ訪問

【経済】

- エチオピアとの市場開放
- アフリカ大陸向けの輸出増
- 企業関係者はUNBSに憤慨
- ウガンダ国営航空の就航
- 対外債務の内訳

【日ウガンダ関係】

- 無償資金協力「建設設備操業訓練施設整備計画(UNIDO連携)」に係る交換公文署名
- 「アフリカ健康構想」協力覚書締結
- 無償資金協力「カンパラ交通管制改善計画」に係る交換公文署名式
- 草の根・人間の安全保障無償「マサカ県聖ジョゼフ・キトヴ病院救急車整備計画」引渡式
- 陸上自衛隊によるウガンダ人民軍PKO活動のための重機訓練
- 無償資金協力「チョガ湖流域地方給水計画」竣工式
- 日ウガンダ首脳会談

【内政】

- 野党政治家の暗号化された連絡を傍受・解読するにあたり、ウガンダの治安・情報機関を中国のファーウェイ社が秘密裡に支援していたとの記事を、14日、ウォール・ストリート・ジャーナル紙が報じた。大統領の指令を受けたウガンダ警察のサイバー部門は、ファーウェイ社の専門家にチャグラニ議員のWhatsApp や Skype での暗号化された連絡の解読を依頼した。これに対し、中国側は関与を否定している。(15日付デイリー・モニター紙)
- 29日、保健省は、エボラ患者1名の確定輸入事例発生を発表した。確定事例は9歳女児で、隔離されながら移送され、血液検体が即座にウガンダ・ウイルス研究所(UVRI)に持ち込まれた。29日中にエボラ陽性と確定診断され、8月30日午前8時頃ブウェラ病院のエボラ治療ユニット(ETU)で死亡した。これはウガンダに越境して亡くなった4例目である。遺体は家族の求めに応じて安全にコンゴ(民)に移送された。(29日付ウガンダ保健省プレスリリース)

他)

【外政】

- ウガンダ警察及び軍諜報機関は、7月23日にルワンダ系教会を強制捜査し、40名以上のルワンダ人を逮捕した。その後、容疑者の身元確認及びウガンダへの入国経緯を確認していたところ、うち数名がウガンダの偽造身分証明証を所持していた。逮捕された者のうち数名はペンテコステ派の信者を装って教会に出入りしながら、ルワンダ政府に敵対するルワンダ軍高級幹部を追跡していた。(4日付サンデー・ビジョン紙)
- 21日、アンゴラの首都ルアンダで、ムセベニ大統領とカガメルワンダ大統領は、両国間の緊張状態を終結させる覚書に署名した。ロウレンソ・アンゴラ大統領及チセケディ・コンゴ(民)大統領が仲介役を務め、サスヌゲソ・コンゴ(共)大統領が大湖地域国際会議議長として同席した。ここ6カ月間、ウガンダ・ルワンダ関係は凍りつき、緊張状態が続いていた。(22日付ニュー・ビジョン紙及びデイリー・モニター紙)
- キール南スーダン大統領は、24日、エンテベの大統領官邸でムセベニ大統領と会談し、両大統領は道路及び電力をジュバまで延長することについて話合った。ムセベニ大統領は、南スーダンの人々に必要なのは戦争ではなく、国を安定化させるための平和と選挙であると述べた。キール大統領は、南スーダンは安定しており、2013年の衝突以降、現在は正しい道を進んでいると述べ、暫定政府に参加するために帰国しようとする全ての人々を大いに歓迎すると述べた。(26日付ニュー・ビジョン紙)

【経済】

- ウガンダ外務省によると、エチオピアはウガンダ産品への市場開放に合意し、ウガンダも多くのエチオピア産品の輸入を認めた。ウガンダには、乳製品、砂糖、コーヒー、医薬品、穀物、牛肉製品、プラスチック製品等のエチオピアへの輸出が許可され、他方、ウガンダは、エチオピアからの織物、ワクチン、皮革製品、タイヤ、花卉等の輸入を許可した。(19日付ニュー・ビジョン紙)
- チャンバッデ貿易産業大臣によると、ウガンダから輸出される財の47.2%はアフリカ向けが占めており、アフリカはウガンダの輸出にとって最大の市場である。その輸出額は2014年の8.9億米ドルから2018年には16億米ドルに増加した。(23日付デイリー・モニター紙)
- 企業関係者は、ウガンダ国家標準化機構(UNBS)の業務非効率性が事業を圧迫しており、毎月莫大な損害を被っている。ウガンダ製造業協会(UMA)のビルンギ事務局長は、UNBSによる手続の遅延によって、生産に遅れが生じ、売上げが減少し、閉店に追い込まれている企業もあると述べた。企業関係者は、「我々と取引のある外国の調達先企業は、今後我々との取引をしないと断言している。」「UNBSは市場では規格外の製品を取り締まることが出来ないにもかかわらず、法令を遵守している企業に嫌がらせをしている。」などと述べた。(27日付ニュー・ビジョン紙)

- 27日、エンテベからナイロビに向けてウガンダ国営航空のボンバルディアCRJ100が出発した。ウガンダ航空はナイロビ、モガディシュ、ジュバ及びダルエスサラーム各空港への就航から開始し、加えてモンバサ、キリマンジャロ及びブジュンブラの7空港に就航する。(28日付各紙)
- ウガンダ財務省によると、ウガンダの2018年の債権者への償還額は6,260億シリング(約170百万米ドル)であり、その42%にあたる2,660億シリング(約72百万米ドル)はTDB銀行(Trade and Development Bank:1985年に設立されたCOMESAの開発金融機関)に対するものである。中国輸銀が二番目に大きな債権者で、全体の18%にあたる1,170億シリング(約32百万米ドル)を、世銀の国際開発協会(IDA)が三番目に大きく、全体の16%にあたる1,020億シリング(約28百万米ドル)を占めている。(31日付サタデー・モニター紙)

【日ウガンダ関係】

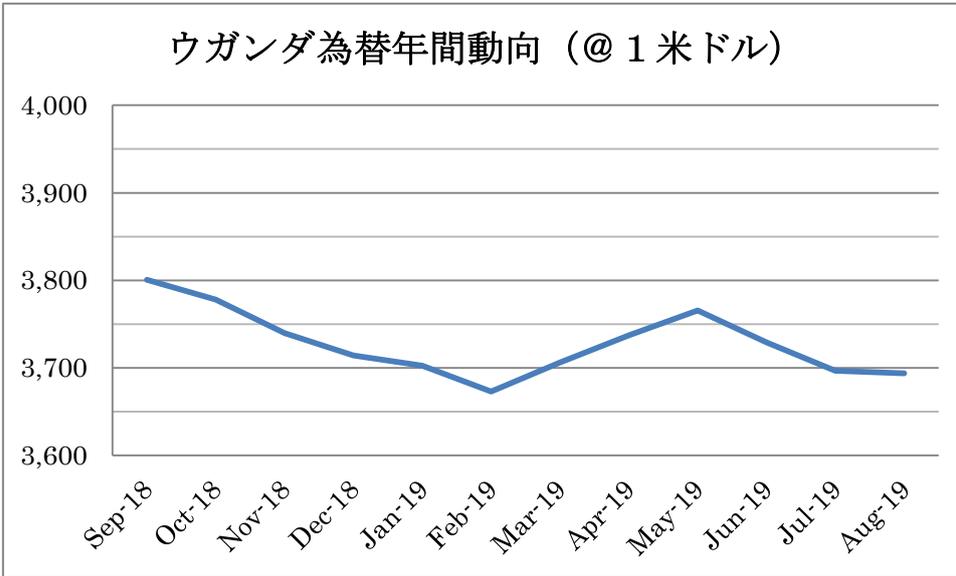
- 8日、亀田大使とブルーノ・オットー・トクウィニーUNIDOウガンダ事務所長との間で、無償資金協力「建設設備操業訓練施設整備計画(UNIDO連携)」に関する交換公文の署名を行った。主賓のカトゥンバ公共事業担当国務大臣は、「日本製建機1,150台の購入は多大な投資であったが、耐久性があり、ウガンダの道路開発に資するものである。コマツは納品後もオペレーター・トレーニングに協力してくれてきた。これらの日本企業に感謝したい。」と述べた。(12日付ニュー・ビジョン紙)
- 14日、亀田大使とアチエン保健大臣との間で、ヘルスケアと健康分野における協力覚書の署名を行った。アチエン大臣は、「日本政府とウガンダ政府とは長年の成果ある協力関係があり、日本は、特にインフラ開発、人材育成、保健分野での支援を行っている。この機会にあらためて日本政府と日本国民への感謝を表明したい。本協力覚書の下で、健康増進、予防、感染症対策、母子保健、衛生改善等の課題に取り組んでいく。」と述べた。(14日付ニュー・ビジョン紙ウェブ版)
- 16日、亀田大使とカサイジャ財務大臣との間で、無償資金協力「カンパラ市交通管制改善計画」に関する交換公文の署名を行った。カサイジャ財務大臣は、「カンパラの交通渋滞により市民は時間を浪費しており、これが経済成長を阻害している。カンパラ市当局には責任をもって適切に計画を実施してもらいたい。」と述べた。(19日付ニュー・ビジョン紙)
- ムウエンジェ国防大臣は、「日本の陸上自衛隊は、8月26日から11月18日まで、国連PKO活動に従事するウガンダ人民軍の重機訓練のために、22名の要員を派遣する。」と述べた。本プロジェクトは、ジンジャのウガンダ早期展開能力センターで、陸上自衛隊が教官団として参加する国連三角パートナーシッププロジェクトである。(20日付ニュー・ビジョン紙)
- 22日、ウガンダ東部キブク県において、無償資金協力「チョガ湖流域地方給水計画」の竣工式が、チェプトリス水・環境大臣を主賓として執り行われ、多数の地元住民もこれに参加した。チェプトリス大臣は、「東部地域の5県9か所における給水設備の整備に感謝する。」と述べた。

た。(26日付ニュー・ビジョン紙)

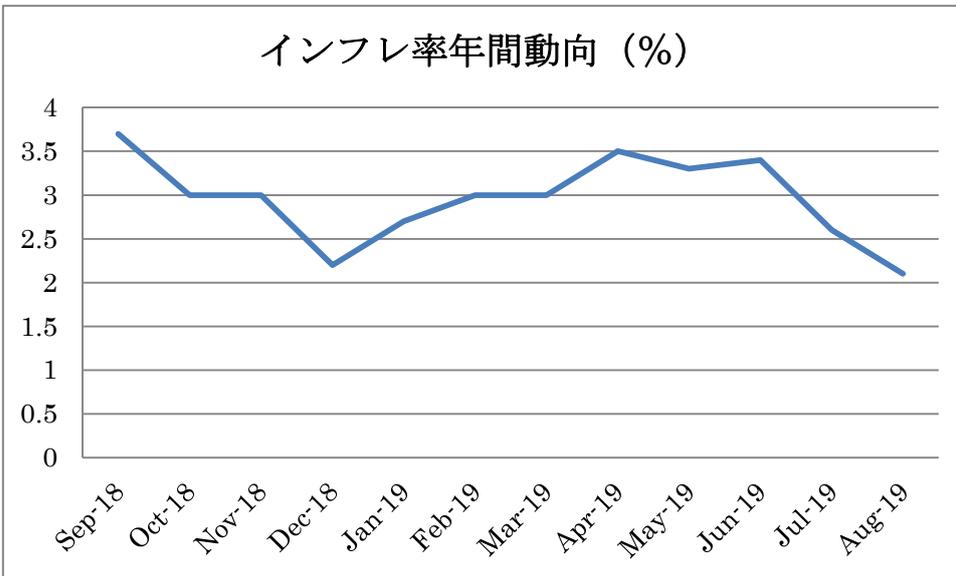
- TICAD7出席のため3日間の日程で訪日中のムセベニ大統領は、横浜で、安倍総理大臣と首脳会談を行った。ムセベニ大統領は、「橋梁、道路、電力、職業訓練校といったウガンダにおけるインフラ開発のための支援に感謝する。」と述べ、安倍総理は、ウガンダへの質の高い投資を促進することに同意した。(30日付大統領府報道部発表)

(別紙)2019年8月主要経済指標(ウガンダ中央銀行)

・ウガンダ・シリング為替相場@1米ドル:3,693.7シリング(前月3,696.5シリング)



・インフレ率(前期比年率):2.1%(前月2.6%)



・政策金利: 10. 0%(前月: 10. 0%)

